

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

H. イエスは第三回ガリラヤ巡回の前に十二使徒を整える

第4部：イエスの弟子としての目標とそれが彼らの宣教活動に及ぼした影響

デイリー・ジーザス・ニュース #106

MT 10.24-31 (並行テキスト：なし)

24弟子がその師匠にまさることはない。また、しもべがその主人にまさることはない。25弟子がその師匠のようになり、しもべがその主人のようになれば十分である。

「家の主がベルゼブルと呼ばれているのなら、ましてその家の者どもはどんなにか恐れるにちがいない。26わたしは命じる、彼らを恐れてはならない。安全に隠してあっても露わにならないものはなく、秘密にされても知られずに済むものは何もないからだ。27わたしが暗闇であなたに告げることを、わたしは命じる、昼間に語れ。あなたの耳元でささやかれることを、屋根の上から告げ知らせよ。

28「わたしはあなたたちに命じます。体は殺しても魂を滅ぼす力を持たない者たちを、恐れるのではなく、むしろ、魂と体を地獄で滅ぼす力を持つ方を、心から畏れ敬いなさい。

29「雀二羽は一アサリで売られているではないか。しかし、あなたがたの父の保護なしには、その一羽さえも地に落ちることではない。30あなたがたの髪の毛までも、みな数えられて知られている。31だから、恐れることはない、とあなたがたに命じる。あなたがたはいつもたくさんの雀よりも価値があるのだ。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤字で斜体で書かれています**。旧約聖書からの引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	おそらくガリラヤのカペナウム
タイムライン	回ツアー直前)
イエスの生涯の文脈	第4段階：ガリラヤにおける大宣教
	H. イエスはガリラヤへの第三巡回の前に十二使徒を整える
タイトル	第4部：イエスの弟子としての目標とそれが彼らの宣教活動に及ぼした影響

コメント：

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

H. イエスは第三回ガリラヤ巡回の前に十二使徒を整える

今日の聖書朗読では、イエスは十二使徒の訓練を続け、かつて語った最も重要なことの一つである弟子としての目標を再び述べました。」**生徒が教師のようになり、しもべが主人のようになれば十分です。」**私たちは誰も最初からイエス様のような人間ではありません。ですから、イエス様に**「似る」必要がありません**。イエス様にとっては、この結果だけが**「十分」であり**、完全なキリストのような存在になること以外は何一つ受け入れられません。ですから、もしイエス様との関係が、私たちを着実にイエス様に似た者へと変えていかないなら、何か根本的な間違いがあるのです。

「従いなさい」と呼びかけることで、この目標を暗示していました。従うということは、「サイモン・セイズ」ゲームのように、常にすべてを指導者に合わせて調整することを意味します。イエスに従うということは、イエスに**「似た者になる」ことを意味します**。

DJN (旧約聖書) では、イエスが十二使徒を選んだ後、彼らに「山上の教え」を詳しく教えられたことが述べられています。イエスはこの説教の中で、まさに同じ目標を明確に示されました。**「弟子は師にまさる者ではない。しかし、しっかりと訓練され、造り変えられた者は皆、完全に師のようになる。」**イエスは弟子となることを、絶えず学び、イエスに適応し、最終的にすべての点で完全にイエスのようになるまでの過程と理解していました。イエスは十二使徒との最初の主要な教えの中で、そのことを示されました。

さて、イエスは弟子たちがガリラヤへの三度目の巡回に先立って出かけ、ご自身が最初に彼らに与えたのと同じように、他の人々にも惜しみなく与えることができるように備えておられました。つまり、使徒たちに対するイエスの弟子としての目標は、福音を宣べ伝える人々に対するイエスの目標と同じだったのです。

「弟子が師のようになり、しもべが主人のようになるのは、それで十分です。」

さらに、イエスのようになるという揺るぎない目標は、使徒たちがイエスと同じように苦難や迫害に耐え、人から何をされるかなど恐れることなく耐え忍ぶことを意味しました。なぜなら、彼らは父なる神が自分たちを愛し、大切にしてくださっていることを心から信じていたからです。主は使徒たちに、自分たちが神にとって最高の価値を持つ存在であることを常に信じるように命じました。

イエスが弟子たちを養う最後の機会である「別れの説教」(ヨハネ13章から17章)—新約聖書全体の中でイエスの教えの中で最も長い部分—において、イエスは弟子としての基本的な目標を改めて示されました。イエスは、死から復活し父のもとへ昇天された後、弟子たちとのあらゆる関わりの指針となる根本的な目標を弟子たちに思い起こさせようとしたのです。この目標は、ガリラヤで初めて語られた時と同様に、今日の私たちの生活においても中心的な役割を果たしています。

ですから、イエスが使徒たちをガリラヤに初めて**「弟子を作る」ために遣わす前に、弟子としての目標がいかに重要であるかを彼らに思い起こさせたのも不思議ではありません**。イエスは、この目標が主ご自身の言行すべてにおいて導かれたのと同じように、使徒たちの宣教における優先順位を左右することを意図しておられたのです。

応用：

すべての信者はルカ6章40節とマタイ10章24-25節を暗記すべきです。そして、これらの言葉が私たちの心の鼓動となるまで、絶えず瞑想すべきです。

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

H. イエスは第三回ガリラヤ巡回の前に十二使徒を整える

あらゆる点でイエスに似た者となることを学ぶことこそ、私たちの存在意義です。イエスは私たちの燃えるような情熱であり、揺るぎない追求であるべきです。イエスを求めることこそが、イエスに似た者となる唯一の道です。

あなたはいつこれらの聖句を暗記し、イエスの目標をあなた自身の人生の目的としますか？